

令和4年度

私費外国人留学生入試

【 人 間 学 群 心 理 学 類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
「小論文」問題 1 (英語)	<p>1. 「小論文」問題 1 (英語)</p> <p>1-1. 問題文の選定・出題理由</p> <p>問題文は、2016 年に出版された「Handbook of self-regulation: Research, theory, and applications」の中の Chapter 16「Regulation processes in romantic relationships」の一部を抜粋・改変したものである。問題文は、心理学における重要なトピックである愛着に関する内容であり、また文章の難易度の面からも、外国人受験生にとって適切なものになっていると判断し、選定した。</p> <p>問 1 は、問題文の愛着に関する見解に関して、該当する英文の理解と、日本語による表現力を評価することを目的としている。</p> <p>問 2 は、受験者が本文の内容を正確に理解したうえで、問いの意図を理解し、自分の意見を明確かつ論理的に、適切な日本語でまとめられるかどうかを評価することを目的としている。</p> <p>問 1 下線部①について、本文の内容を踏まえて 150 字以内で具体的に説明しなさい。</p> <p><解答例></p> <p>以前に受けた愛着人物（親、友人、恋愛相手など）からの扱いによって、安定したあるいは不安定な愛着を形成し、それが、現在の愛着人物が信頼できるのかといった相手への見方や、自分が困難に陥った時の相手のかかわり方に影響を及ぼす。(110 字)</p> <p>問 2 下線部②について、あなたが insecure individuals のパートナーだったら、どのように対応しますか。あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。</p> <p><解答例></p>

不安定な愛着を形成している人は、過去の愛着人物から一貫したサポートを受けてこなかったり、無条件の愛情を注がれたりしたことがなかったため、自分が愛されるに値する人間であるという感覚を持つことができていない。私がこうした人のパートナーであったら、まずは、相手に対して一貫した肯定的な期待を抱き、ポジティブなフィードバックを与えることで、自分が価値のある人間であるということを理解してもらいたい。また、不安定な愛着を形成している人は、特に、自分が困難に陥った時に不適応的な行動をとりやすいことより、そのような時に自分が安全基地となるように、どのような時でも自分が味方であることを伝えていきたい。(294字)

「小論文」問題 2 (日本語)

2. 「小論文」問題 2 (日本語)

2-1. 問題文の選定・出題理由

この文章は 2020 年に刊行された小塩真司氏の『性格とは何か：より良く生きるための心理学』の内容を抜粋、一部改変したものである。筆者は本書の中で「性格」という言葉を幅広く捉えており、自尊感情についても他の性格特性と同じような方法で測定され、統計的に表現されるものであることから議論の中に加えている。自尊感情の低さは、教育に関する議論などで、国内の識者からもしばしば問題視される一方、心理学の世界では必ずしも問題視されているわけではなく、逆に高すぎる自尊感情の問題が指摘されることもある。本書では複数の章に分かれて自尊感情に対する研究成果が紹介されており、その内容は国際比較、年次推移、男女差と多岐にわたる。自信や自己肯定感という言葉で日常よく知られている心理現象を、心理学における自尊感情の研究からわかりやすく平易な日本語で一般の読者向けに述べていることから、問題文として適切であると考え、選定した。本書では自尊感情はひとつのキーワードとなっており、複数の章に分かれて議論されていることから、問題文も複数の章から抽出した。

問 1 は、「自尊感情の国際比較と経年変化という 2 つの研究成果から日本人の自尊感情について言えること」を簡潔にまとめさせることにより、日本語の読解力、論理性、および表現力を評価することを目的としている。本文を正しく理解できていれば、本文に書いてある内容から解答を導くことができる。

問 2 は、自尊感情の国際比較と経年変化という 2 つの研究成果から展開された、「自尊感情が低下傾向にあるのかどうかについては、どうも国によって結果が異なっているようである。」という結論を受けて、「自尊感情のあり方は国や時代の影響を受けるのはなぜか」を受験生自身に考えさせ、簡潔に述べさせることにより、論理的思考の展開力、論述における論旨の明確性、論理性、および論述力を評価することを目的としている。

問 1 (2)と(3)から、日本人の自尊感情について何が言えるのか、100字以内で述べなさい。

<解答例>

日本人の自尊感情は、国際的に見て低く、平均値の順位は最下位である。また、どの年齢段階においても近年になるほど平均値は低下傾向にあり、諸外国に比べて低い自尊感情がさらに低下していることが懸念される。(98字)

問2 筆者らは、いろいろな国で行われた研究論文を調べて、(4)の下線部のように述べている。なぜそうなるのか、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

<解答例>

ほめて育てる子育てもあれば、ダメ出しをして育てる子育てもある。良いところを伸ばそうとする教育や指導もあれば、ダメなところを問題視し、矯正していこうとする教育や指導もある。子どもの個性に価値を認めて、子どもの現状がどうであれ、その子どもを肯定する考え方もあれば、大人が理想とする子ども像に子どもを導いていくことを重視し、理想像から外れる子どもをよしとしない考え方もある。国によって文化や価値観は異なり、さらに時代の影響を受けて変わりうるため、子どもの置かれる社会状況は多様である。個人の自尊感情は時代も含めて環境から影響を受けると考えられるため、いつどの国で生まれ育つかによって自尊感情の程度が異なると私は考える。つまり時代や地域によって自尊感情のあり方は異なると考えられるのだが、要因として取り上げるべきはむしろ社会状況や文化の違いであり、“国”という単位で議論することには検討の余地が残る。(396字)